

総括シート〔平成30年度〕

施設名称	品川区立図書館Aグループ(荏原図書館、ゆたか図書館、源氏前図書館)
指定管理者	しながわTRC・リディアグループ
施設所管課	教育委員会事務局品川図書館

＜設置目的＞

図書館法第10条の規定に基づき、区民および図書館利用者の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする。

指定管理業務の概要

- (1) 館の資料貸出、返却、登録、予約・リクエスト、レファレンス等窓口業務に関すること。
- (2) 資料の選定、保存、除籍等蔵書管理に関すること。
- (3) 図書館運営および行事、地域サービスに関すること。
- (4) 施設の維持・管理に関すること。
- (5) その他館の運営に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績（利用者数、利用率等）に関する統計情報および収支決算書の概要

	平成28年	平成29年	平成30年
入館者数(人)	564,688	561,818	540,123
全登録者数(人)	34,526	33,356	33,870
全貸出総数(点)	869,525	857,172	852,483
予約処理件数(件)	243,113	241,850	254,418
レファレンス件数(件)	9,441	12,184	9,763
児童おはなし会参加者数(人)	3,294	3,050	2,533

総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

（積極的評価）

- 指定管理者第二期の1年目は、第一期3年間の実績と取組を踏まえ、継続的・安定的な図書館運営に努力してきている。
- 重点目標である高齢者支援事業(認知症カフェ)は、10月から月1回定例開催し高齢者福祉課、在宅介護支援センター、支え愛ほっとステーションなど地域連携を図り継続開催を実施してきた。

（改善が必要な項目）

- 図書館運営の基本である選定・蔵書管理・レファレンス・地域サービス等の更なる充実と区民が本と出合える機会づくりのため、年間計画に基づいた事業の継続実施が求められている。

改善が必要とされた原因の分析および対応方針

- 区民・利用者の本との出会い・読書意欲を喚起する魅力ある書架づくりと児童・高齢者等への地域サービスの充実。ティーンズサービスの計画的な実施。参加者の定着が図られつつある認知症カフェは、近隣の福祉施設、病院、商店街等へのPRを広げ参加の拡充を図っていくこと。

「評価の視点」別のコメント

1 区民満足の視点

- 児童サービスは、定例(毎週水曜日)おはなし会から乳幼児(0.1.2歳)おはなし会開催へ充実させ、保育園・幼稚園へ来館・訪問おはなし会などアウトリーチサービスに、荏原図書館、ゆたか図書館、源氏前図書館で取り組みが進みつつある。
- 平塚橋ゆうゆうプラザ、中延商店街、戸越銀座商店街、大崎高校など地域のニーズや特性を踏まえた連携事業に取り組んできている。
- 「高齢者にやさしい品川区」を合言葉に、スタッフ全員の「認知症サポーター養成講座受講」と荏原図書館「認知症カフェ」の月1回の定例開催を実施し、参加者の定着と新たな図書館利用の拡充に取り組んでいる。

2 予算執行(財務)の視点

- 適正な予算執行に向けて資料費、光熱水費、小破修繕・補修工事、備品購入費等年間予算計画を立て、執行にあたっては事前に品川図書館との協議や四半期毎の報告を行っている。収入は複写サービス料金のみであるが前年度実績に基づいて収入計画を立てている。
- ゆたか図書館(昭和50年開館)、源氏前図書館(昭和47年開館)は開設以降経年劣化が進んでいるが、施設維持管理事業者と打ち合わせを行いながら定期点検など施設維持管理を実施している。

3 サービス向上および業務改善の視点

- 読書離れ、区民の多様なニーズに対応するため、高齢者支援事業、児童サービス(アウトリーチ)等積極的に取り組んでいる。また、企画行事実施にあたっては参加者アンケートを必ず実施し、事業の反省と区民要望や充実に向けた取り組みを実施している。
- 本との出会いを作り広げるため広報・PR活動と魅力ある書架・特集展示・企画など年間計画に基づいて充実を図っていくことが求められている。
- 品川図書館主催で2回実施した「危機管理研修」への参加、「認知症サポーター養成講座」へのグループとして積極的な参加を図ってきている。また、月1回館内整理休館日には事務連絡で終わることなく、レファレンス研修、窓口対応研修など業務の充実と業務改善への取り組みを行っている。引き続きスタッフのレベルアップが求められている。

4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

- Aグループは、(株)図書館流通センターとNPO法人リディアが共同事業体として指定管理者を受託。一般サービスは(株)図書館流通センター、児童サービスはNPO法人リディアが実施しているが、月1回の共同事業体会議、グループ館長会、児童責任者会議等事業運営にあたり共有が図れるよう工夫と体制を整えている。
- グループ間での人員配置、応援体制も確立されており、土曜日・祝日・日曜日等の繁忙日や繁忙時間帯においても利用者サービスを低下させない運営体制に努力している。
- グループ内の危機管理対応については、危機管理研修の実施や警察との連携も図り、グループ内に巡回スタッフを1名配置し、危機管理への備えを行っている。

※ 経営会議における評価結果

検証の結果、総括シートの内容のとおりとし、利用者満足につながる試みを継続して実施するとともに、多方面へのアプローチ、各グループ間の連携をもって利用者の拡大に取り組むこと。

総括シート〔平成30年度〕

施設名称	品川区立図書館Bグループ(大井図書館、南大井図書館、八潮図書館)
指定管理者	株式会社ヴィアックス
施設所管課	教育委員会事務局品川図書館

<設置目的>

図書館法第10条の規定に基づき、区民および図書館利用者の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする。

指定管理業務の概要

- (1) 館の資料貸出、返却、登録、予約・リクエスト、レファレンス等窓口業務に関すること。
- (2) 資料の選定、保存、除籍等蔵書管理に関すること。
- (3) 図書館運営および行事、地域サービスに関すること。
- (4) 施設の維持・管理に関すること。
- (5) その他館の運営に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績（利用者数、利用率等）に関する統計情報および収支決算書の概要

	平成28年	平成29年	平成30年
来館者数(人)	488,498	477,611	463,208
全登録者数(人)	28,194	27,392	27,616
全貸出総数(点)	730,092	724,724	707,083
予約処理件数(件)	223,295	229,154	238,862
レファレンス件数(件)	12,642	10,742	8,187
児童おはなし会参加者数(人)	3,160	2,615	2,201

総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

（積極的評価項目）

- 第二期指定管理者1年目。品川区立図書館運営に当たり「継続的・安定的なサービスの提供」を重点課題に窓口業務・蔵書管理・一般および児童地域サービスに取り組んできている。
- 大井図書館「大井第一小学校連携事業」「品川歴史館協力の歴史講座」、南大井図書館「しながわ水族館連携事業」「大森キネカ(映画館)連携」「落語会」、八潮図書館「八潮児童センター連携事業」「認知症カフェ」など区民満足度の高い事業へ積極的な取組を実施してきている。

（改善が必要な項目）

- 図書館運営2年目に向け、選定・蔵書管理・レファレンス・地域サービス等の更なる充実を図ることが求められており、スタッフのスキルアップ、年間計画に基づいた事業の継続実施が求められている。

改善が必要とされた原因の分析および対応方針

- Bグループは児童、高齢者の利用も多く、本との出会い、読書意欲を喚起する特集・ミニ特集の年間計画に基いた実施と読書相談・レファレンスの充実を図ること。また、近隣施設(児童センター、しながわ歴史館、小学校、しながわ水族館等)や事業者との連携した取組を計画的に図ること。

「評価の視点」別のコメント

1 区民満足の視点

- 初めての品川図書館運営であるが、Bグループ個人貸出数は対前年比で99.5%と若干前年度より減少したが、児童図書は対前年比104.5%の増。八潮図書館の児童図書貸出は対前年比117.2%の増となっている。Bグループ全体として安定的・継続的な運営に努力してきている。
- 八潮図書館「認知症カフェ」の月1回定例開催は、毎回20人以上の参加やボランティア参加も図られてきている。大井図書館はしながわ歴史館との歴史講座、大井第一小学校との連携事業開催。南大井図書館は、しながわ水族館・映画館と共催事業、落語講演会など区民満足度の高い企画事業を実施してきている。また、児童地域サービスはアウトリーチの取り組みにも踏み出してきている。
- 八潮図書館ではFM八潮(月1回放送)で「図書館お知らせ」放送や八潮だよりの全戸配布など広報活動も積極的に取り組んできている。
- 八潮図書館「認知症カフェ」の取組は、運営ボランティアの参加や地域住民と高齢者の交流の場へと広がりが見られつつある。

2 予算執行(財務)の視点

- 予算執行にあたっては、資料費、修繕費、備品購入費、光熱水費、施設維持管理費、事務費等年間計画を立て執行にあっている。また予算執行にあたっては、本社経理担当者および内部監査も行い適正執行に努めており、四半期毎の品川図書館への報告も実施されている。
- 修繕等については、事前に品川図書館と協議をしながら適正な執行に努めている。
- 再委託先管理については、施設維持管理事業者と定期的な打合せを行いながら施設維持管理を行っている。

3 サービス向上および業務改善の視点

- 「基本業務研修」(全職員)、「児童サービス研修」(担当職員・南大井は全職員)、「個人情報保護研修」(全職員)、「防災訓練」(年2回)等年間研修計画に基づいて業務内容および水準の維持向上に努力している。また、品川区立図書館の選定・選書を習得するためグループ内での調整・交換会なども開催している。
- グループ内の館長を中心とした連絡調整も定期的実施し、安定した運営に努めている。
- 本との出会いを作り広げるため、八潮図書館に続く広報・PR活動と魅力ある書架・特集展示・企画など年間計画に基づいて充実を図っていくことが求められている。

4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

- 運営体制については、募集要項、業務要求基準書に基づき統括館長、地区館長を配置し、有資格者(司書)については目標を上回る配置を行っている。(大井図書館有資格者配置63%、南大井図書館有資格者配置77%、八潮図書館64%)
- 業務の適正執行に当たっては、年間研修計画に基づき実施するとともに、館内整理日には館内でのレファレンス研修、選定研修など品川区立図書館運営の適正な執行に向けた取り組みを行っている。

※ 経営会議における評価結果

検証の結果、総括シートの内容のとおりとし、レファレンスサービスなど利用者目線の取り組みを積極的に進めるとともに、各所へのPRも継続して行い、来館者数、貸出総数の向上に努めること。

総括シート〔平成30年度〕

施設名称	品川区立図書館Cグループ(五反田図書館、大崎図書館、大崎図書館分館、二葉図書館)
指定管理者	しながわTRC・リディアグループ
施設所管課	教育委員会事務局品川図書館

<設置目的>

図書館法第10条の規定に基づき、区民および図書館利用者の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする。

指定管理業務の概要

- (1) 館の資料貸出、返却、登録、予約・リクエスト、レファレンス等窓口業務に関すること。
- (2) 資料の選定、保存、除籍等蔵書管理に関すること。
- (3) 図書館運営および行事、地域サービスに関すること。
- (4) 施設の維持・管理に関すること。
- (5) その他館の運営に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績（利用者数、利用率等）に関する統計情報および収支決算書の概要

	平成28年	平成29年	平成30年
来館者数（人）	638,136	624,427	597,027
全登録者数(人)	43,727	41,437	45,106
全貸出総数(点)	990,464	988,257	891,476
予約処理件数(件)	357,978	356,226	292,227
レファレンス件数(件)	20,506	11,431	11,310
児童おはなし会参加者数(人)	2,783	2,472	3,093

総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

（積極的評価事項）

- 指定管理者第二期1年目。第一期3年の運営実績を踏まえた継続的・安定的な図書館運営に取り組んでいる。また、重点目標の大崎図書館移転開館(平成30年6月)、大崎図書館分館開館(平成31年1月)を準備し開館に取り組んだ。
- 五反田図書館「認知症カフェ」の月1回定例開催、大崎図書館「雑誌スポンサー制度」(1事業所7誌)、児童のアウトリーチサービスなど新たな目標と課題に積極的に取り組んできている。

（改善の必要な項目）

- 図書館運営の基本である選定・蔵書管理・レファレンス・地域サービス等の更なる充実を図ることが求められており、スタッフのスキルアップ、年間計画に基づいた事業の継続実施が求められている。

改善が必要とされた原因の分析および対応方針

- 大崎地域の読書環境整備に伴い、区民・利用者の利用拡大に向け大崎図書館、大崎分館、西口取次施設それぞれの特色を生かし連携した企画事業を計画的に実施すること。引き続きCグループ児童サービスのアウトリーチの取組と認知症カフェの充実を図ること。

「評価の視点」別のコメント

1 区民満足の視点

- 「高齢者にやさしい品川区」を合言葉に、「認知症サポーター養成講座」受講、五反田図書館「認知症カフェ」の月1回の定例開催、大崎図書館「品川リハビリテーションパーク共催事業」、「雑誌スポンサー制度」、西口図書取次施設と連携した「しながわ夢さん橋 2018」への参加、二葉図書館「しながわ ECO フェスティバル」参加など新たな事業サービスと地域連携事業に積極的に取り組んできている。
- 児童サービスは、訪問・来館おはなし会(五反田 93 回、大崎 15 回、二葉 10 回)や乳幼児おはなし会などアウトリーチの取組も積極的に行っている。
- グループ・各館での企画事業について地域の特性や特徴を生かし、満足度の高い企画事業と連携事業に取り組んでいる。(子育て企画、歴史講座、健康講座など)

2 予算執行(財務)の視点

- 適正な予算執行に向けて資料費、光熱水費、小破修繕・補修工事、備品購入費等年間予算計画を立て、執行にあたっては事前に品川図書館との協議や四半期毎の報告書を行っている。収入は複写サービス料金のみであるが前年度実績に基づいて収入計画を立てている。
- 平成 30 年度開館した品川リハビリテーションパークとの複合施設である大崎図書館は、施設維持管理等について定期的な打合せを行っており、大崎図書館分館は施設維持管理等芳水小学校と連携した運営を目指している。

3 サービス向上および業務改善の視点

- 区民の多様なニーズに対応するため、品川区の企画事業「しながわ夢さん橋」「しながわ ECO フェスティバル」などへの参加。高齢者支援事業、児童サービス(アウトリーチ)について積極的に取組み、図書館利用の促進を図っていくことが求められる。
- 大崎図書館は、品川リハビリテーションパークと複合施設の特徴を生かし、健康講座、施設共催リサイクル市、介護フェスタへの参加など今後も積極的な取組が求められる。
- 本との出会いを作り広げるため、広報・PR 活動と魅力ある書架・特集展示・企画など年間計画に基づいて充実を図っていくことが求められている。また、大崎地域の図書館環境充実と利用の拡充に向け、大崎図書館、大崎図書館分館、大崎駅西口図書取次施設との共同企画の取り組みや連携した事業が引き続き求められている。

4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

- C グループは、(株)図書館流通センターと NPO 法人リディアが共同事業体として指定管理者を受託。一般サービスは(株)図書館流通センター、児童サービスは NPO 法人リディアが実施しているが、月1回の共同事業体会議、グループ館長会、児童責任者会議等事業運営にあたり円滑な運営を目指した工夫と体制を整えてきている。
- グループ内での人員配置、応援体制も確立されており、土曜日・祝日・日曜日等の繁忙日や繁忙時間帯、しながわ ECO フェスタ、夢さん橋などグループ全体で取り組みを行っている。
- グループ内の危機管理対応については、グループ内に巡回スタッフを1名配置し、危機管理への備えを行っている。

※ 経営会議における評価結果

検証の結果、総括シートの内容のとおりとし、地域連携事業への積極的な取り組みを継続するとともに、地域特性を生かしたサービス提供を行い、利用者満足の向上に努めること。

令和元年9月25日
文教委員会資料
子ども未来部子ども家庭支援課
子ども未来部保育課

平成30年度指定管理者による管理に対するモニタリング・評価の結果について

- 1 子ども家庭支援課 所管施設
 - ・品川区立家庭あんしんセンター

- 2 保育課 所管施設
 - ・品川区立就学前乳幼児教育施設（ぷりすくーる西五反田）

総括シート〔平成30年度〕

施設名称	品川区立家庭あんしんセンター
指定管理者	社会福祉法人 福栄会
施設所管課	子ども未来部 子ども家庭支援課

<設置目的>

母子家庭に対する自立生活支援および子育て家庭に対する育児支援を図る。

指定管理業務の概要

- (1) ひまわり荘、子育て支援センター、ファミリー・サポート・センターにおける事業運営に関すること。
- (2) ショートステイ室、トワイライトステイ室の利用承認および承認取消に関すること。
- (3) ショートステイ室、トワイライトステイ室の利用に係る利用料金の徴収に関すること。
- (4) 施設等の維持および修繕に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績（利用者数、利用率等）に関する統計情報および収支決算書の概要

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
管理運営委託料(円)	143,083,194	142,454,117	148,007,324
来館者数(人)	7,896	7,029	6,637
養育支援訪問事業 虐待防止(件) *1	147	78	30
子育て短期支援事業利用料(円)	2,876,400	3,055,040	2,805,300

* 1 平成 28 年度の養育支援訪問事業（件）には、育児支援ヘルパーの件数も含まれている。

総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

【評価事項】

- ひまわり荘では、地域貢献活動事業として大学生ボランティアとともに「学習支援」「居場所づくり」「食事の提供」を継続して実施してきた。また、小学校での英語学習に合わせて、全員参加型の英語学習の時間を設定し、楽しみながら参加できる工夫を図った。
- 子育て支援センターでは、平成 28 年度よりショートステイの利用要件に「育児疲れ、看病疲れ、育児不安など身体上または精神上的の事由で児童の保育ができないとき」を追加した。関係機関への周知活動を行い、利用促進を図ったことで、それらの事由による利用件数が増えている。育児不安の軽減が図られ養育支援訪問件数の減に繋がっているなど、虐待予防の観点からも評価することができる。
- ファミリー・サポート事業では、養成講座を年 4 回開催し新規提供会員 11 名の登録があった。また、マッチングできない事例について集計し、原因究明と分析を行った。

【改善が必要な事項】

- 情報セキュリティの向上
- 子育て支援センターにおける手続きの簡素化

改善が必要とされた原因の分析および対応方針

- 家庭あんしんセンターでは、電算機器を使用し各業務の効率化が図られており、多くの個人情報を扱っていることから、情報セキュリティ対策の一層の向上が求められている。管理体制や研修等の実施による職員一人一人の意識の向上を図る具体的かつ継続的な取り組みが必要である。
- 子育て支援センターにおける手続きにおいて、説明や手続きに複数回の来所が必要である。手続きの簡素化を図る必要がある。

「評価の視点」別のコメント

1 区民満足の視点

- 各事業の実施時にアンケートを行い、利用者からの意見・要望の収集に努め、事業の改善に取り組んでいる。また、施設内に意見箱を設置するなど、利用者が意見・要望を出しやすい環境づくりに努めている。行事等のアンケートについては、意見・要望を反映させた計画策定に努め、さらに、福祉サービスにおいては、自己評価を実施し、抽出した内容を活かした事業運営に努めた。
- 苦情対応については、「苦情解決第三者委員会」を設置しているが、平成 30 年度は、苦情の申し立てはなかった。

2 予算執行（財務）の視点

- 管理運営委託料は適切かつ計画的に執行し、光熱水費のコスト削減など節電に努めるとともに、利用料金収入は、環境整備や安全の確保など利用者サービス向上のために充てている。
- 子育て短期支援事業では、利用管理システムを活用し、効率的に請求事務を行っている。

3 サービス向上および業務改善の視点

- それぞれの事業ごとに目標値を設定し、達成に向けて常に取り組んでいる。日々の業務については、職員会議等で改善策を図っている。
- ひまわり荘では、毎月の互助会行事やアンケート等により、利用者からの要望・意見を把握し改善に活かすとともに、退所家庭のアフターケアの継続実施と充実を図るなど、着実な自立支援をサポートしている。
- ファミリー・サポート事業では、利用者の支援向上に向けて、会員の意向調査を実施、分析結果の事業に活かしている。

4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

- 適正な職員配置や各事業間連携が図られており、常に区と連絡調整を行いながら、適正な事業の実施に努めているほか、安全管理については、荏原警察署に依頼し、防犯講習にも積極的に取り組んだ。
- 人材育成について、質の高いサービス提供ができるよう、OJT 研修をはじめ内部・外部研修の充実により育成の促進・職員のスキルアップを図った。内部研修においては、施設全体の共通課題を抽出し、計画的に行った。また、平成 30 年度は情報セキュリティ対策として、新たに情報安全対策に関する研修を全職員を対象に実施した。
- 防災マニュアル等に基づき、定期的な訓練を実施し、防災意識の徹底を図っている。

※ 経営会議における評価結果

検証の結果、総括シートの内容のとおりとし、引き続き母子家庭の学習支援および虐待予防を含む子育て家庭の支援に努めるとともに、区との連携を一層深め利用者の拡大並びに利便性の向上を図ること。また、課題となっている情報管理の強化、手続きの簡素化および、退所後のアフターケアについても着実に行うこと。

総括シート〔平成30年度〕

施設名称	品川区立就学前乳幼児教育施設（ふりすくーる西五反田）
指定管理者	特定非営利活動法人子育て品川
施設所管課	子ども未来部保育課

<設置目的>

小学校就学前の乳幼児に対し、保育園および幼稚園の相互の特色を生かした保育および教育を継続的かつ一体的に実施することにより、乳幼児の健全な育成を図るとともに、地域における子育て家庭を支援する。

指定管理業務の概要

- (1) 保育園、幼児教育施設および地域子育て支援センターにおける事業の運営に関する事。
- (2) 延長夜間保育の利用の承認および承認の取消しに関する事。
- (3) 幼児教育施設の入園の承認ならびに入園の制限および退園に関する事。
- (4) 預かり保育の利用の承認に関する事。
- (5) 利用料金の徴収に関する事。
- (6) 施設および設備の維持・修繕に関する事。

事業報告書に添付した管理運営実績（利用者数、利用率等）に関する統計情報および収支決算書の概要

	平成28年	平成29年	平成30年
利用者数（人）	月平均 118 人	月平均 119 人	月平均 120 人
支援センター入館者数（人）	月平均 470 人	月平均 564 人	月平均 705 人
オアシスルーム利用者数（人）	月平均 156 人	月平均 168 人	月平均 172 人
管理運営委託料（円）	188,551,996	194,978,804	206,040,297
使用料（円）	20,859,820	21,642,250	18,926,290
（利用料金）（円）	(40,357,505)	(37,220,285)	(36,792,165)

※使用料は保育園保育料、利用料金は幼児教育施設保育料等

総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

【積極的に評価した事項】

- 就学前までの一貫した教育・保育指針に基づき、幼児教育を行う品川区独自の乳幼児教育施設として、高い保育目標のもとに活動している。
- 平成27年4月からは「年間保育計画」が完成し、「教育・保育課程」のもと、職員の理解を深めつつ、日頃の保育に取り入れやすくするよう、取り組んできた。また、平成30年4月からの保育所保育指針や認定こども園教育・保育要領の改定についても、研修等の充実に努めるなど、新しい指針等への移行を円滑に行うことができた。
- 「安心・安全な食の提供」はもとより、食物アレルギー等配慮食を始め、保護者対象の試食会など、様々な機会を通して、給食委託業者と連携し、「食育」の強化・充実に努めている。
- 職員外部研修の回数を増やし、内容を多様化するなど、職員の資質・専門性の向上に努めている。
- 保育士確保の一環として、優秀な職員確保、定着化、離職防止は、保育士等需要の急増を受けている中で、当法人にとって最重要課題でもあるため、平成28年度より品川区補助制度を活用し、キャリアアップ手当、処遇改善手当、非常勤職員の時給アップ、法人住宅借り上げを行い、職員の処遇改善に努めてきた。

【改善が必要な事項】

- ・労働環境の改善は進んでいるものの、保育士の確保は依然厳しい状況にあるため、今後も引き続き、職員の確保、定着化、離職防止に向け、職員の処遇改善に取り組む必要がある。

改善が必要とされた原因の分析および対応方針

優秀な人材確保のため、品川区保育士等キャリアアップ補助金相当分や保育サービス推進費補助金相当分、処遇改善等加算Ⅱ補助金相当分などの制度を活用して、引き続き職員の処遇改善に取り組み、併せて経費の削減にも取り組んでいく。

「評価の視点」別のコメント

1 区民満足の視点

品川区独自の就学前乳幼児教育施設として、特色ある保育活動および施設運営を行っており、平成29年度東京都福祉サービス第三者評価においても、保護者の満足度は97%に達しており、満足度は高い。

2 予算執行（財務）の視点

特色ある事業の充実や人材の確保のため職員の処遇改善を図りながらも、効率的な施設運営および収入の確保に努めた結果、収支状況は安定している。

3 サービス向上および業務改善の視点

○重点テーマおよび目標

- ・開園から14年間の幼保一体の保育実践を経て、特色ある保育・教育活動の更なる充実が図られた。
- ・年4回、苦情・サービス向上委員会を開催し、職員から保護者の要望・苦情の報告を受け、第三者委員から適切な提案や助言・指導により、さらなる保育事業のレベルアップを図る。

○指定管理者からの提案等

- ・効率的な施設運営を図るため、委託業務内容の見直しと業務がより効果的に進むよう、委託業者と連携し、委託内容などを保育者・職員にも周知するなど、円滑に行えるよう努めている。

4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

〈組織管理体制〉

- ・児童福祉法による保育所運営にあたる適切な人員を配置し、適切な組織運営が行われている。
- ・内部研修の充実に努め、職員のスキルアップに取り組んだ。

〈業務の適正執行〉

- ・不審者対応管理対策として、セキュリティカードシステムを使用するなど、万全の危機管理体制を構築している。
- ・事故、災害および非常時対応の訓練強化に努めているとともに、非常食や発電機等を備えるなど、園児の安全確保に努めている。
- ・法人管理規程に基づき再委託先を適切に管理している。
- ・個人情報の保護および法令遵守の観点から、日常業務における個人記録の管理等を徹底している。

※ 経営会議における評価結果

検証の結果、総括シートの内容のとおりとし、安定的な園運営のため、引き続き人材確保や離職防止のための職員の処遇改善に努めるとともに、特色ある保育・教育活動の更なる充実に向けて取り組むこと。